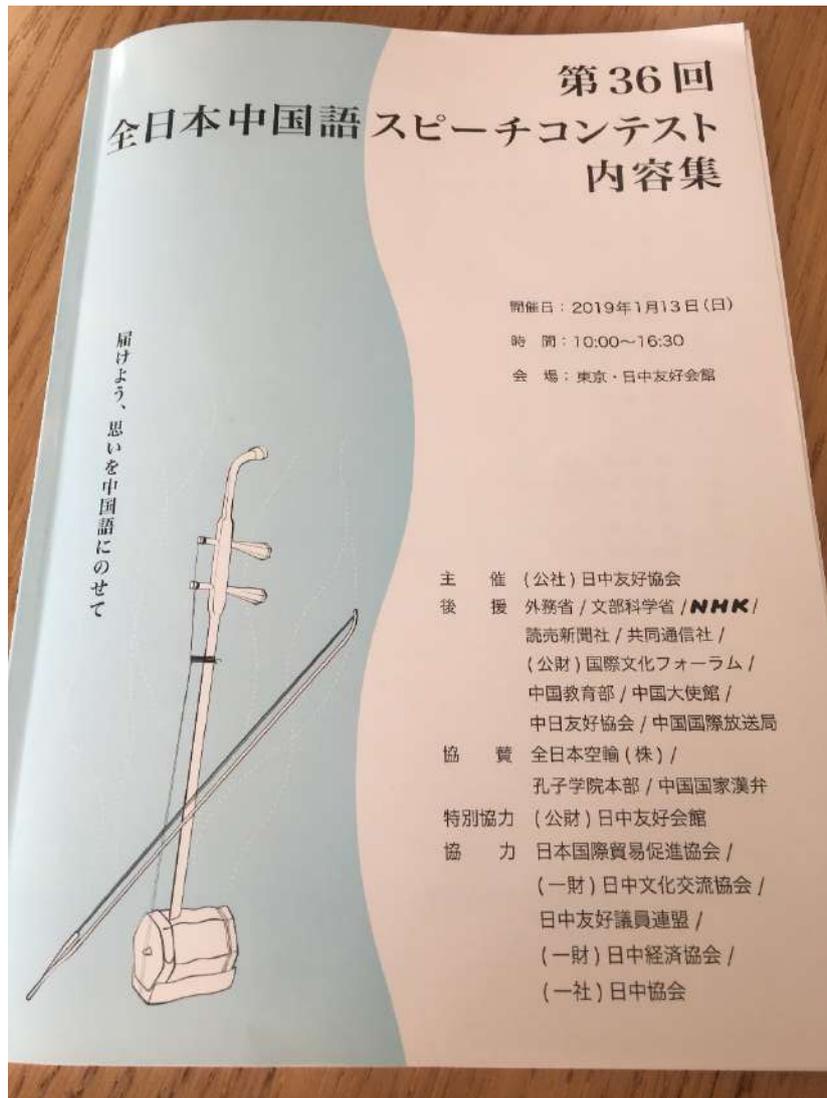


中国語スピーチコンテストから見た日本人の中国観

第36回全日本中国語スピーチコンテスト全国大会

2019年1月13日公益社団法人日本中国友好協会主催の第36回全日本中国語スピーチコンテストの全国大会が実施された。本大会は、2018年中に各都道府県において行われた予選を勝ち抜いてきたメンバーによる大会である。日本の外務大臣賞、文部科学大臣賞に加えて、中国大使館賞、中国教育部賞もある栄誉ある大会となっている。



プログラム

オリジナル文章を発表するスピーチ部門と規定の文章を読む朗読部門の2つに分かれており、スピーチ部門は高校生部門、大学生部門、一般部門の3つから成っている。

第36回目となる今大会は、予選を勝ち抜いてきた高校生部門から6人、大学生部門から10人、一般部門から6人が発表した。全部門含めた中で最も優れた人に授与される日中友好会長賞は大学生部門で「自动驾驶开启人机共处的新时代」を発表した熊本県代表、瀬野智博氏が受賞した。



1位の瀬野智博氏

審査員の講評として、東京外国語大学教授の加藤晴子からは、スピーチの技術的な部分のアドバイスがあったことの他に、スピーチの内容について、例年は留学に行って経験したという話題が多い。しかし、今年は自分たちが中国に行くといった体験を通してだけでなく、日本に来た中国の人たちと接した時の話題が出てきたことが特徴だということだった。近年、日本へ旅行する中国観光客は年々増えており、2018年には800万人以上に達する見込みである。今後は、日本国内で中国人に接する経験を持つ人がさらに増えることが見込まれ、中国語学習効果を日本国内で実感する機会も増えると思われる。(参考：日本政府観光局 https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/since2003_tourists.pdf)



東京外国語大学加藤晴子教授

スピーチコンテストの内容から見た日中関係

スピーチコンテストの発表内容は、選手が自ら考えたエピソードになるが、テーマは自由となっている。それにも関わらず、複数のスピーチの発表者が同じような考え、経験をしていることが発見された。これは、最近の日本人の若者の傾向かと思うので、3つほど紹介したい。

1) 日本人から見た中国と中国人

中国語を勉強した、中国へ留学に行くと周囲に話をして、返ってくる反応は「なんで中国語なの？」「なんで中国なの？」という反応が多いようです。また、両親は日本人だからといって、中国で危険な目にあわないかということで心配している人がほとんどのようでした。日本人がアメリカやイギリスに留学に行くというと、そんな反応はありません。まだまだ日本人にとって中国語を勉強すること、中国へ留学に行くことは一般的ではないのだと思います。

もう一つは中国語を勉強する前は、中国語を話しているのを聞いて、怒っているのではないかと感じる人が多いということです。日本語に比べて、中国語は語気が強く、その分声大きい人も多いです。中国の電車内では携帯電話で話をするのは日常的ですが、日本の電車内では携帯電話で話すことはマナー違反だと思われています。そのため、日本の電車では中国語で電話をしていたりすると、目立つというのもあるようです。

2) 直接の交流が変えたもの

中国語を勉強している、また中国へ留学したいと思っている人が必ずしも中国について詳しいわけではありません。そのため、スピーチをする人の中には、留学をする前は少し不安だったという話をする

人もいました。それは、中国人は日本人のことが嫌いで、それが原因で面倒ごとが起きるのではないかという考えからのようです。日本のメディアでもそのような報道がされていることがあり、実際に中国に行ったことがない人、中国人と接したことがない人はその情報をうのみにしてしまうということでした。

ただ、実際に行ってみると、もちろん危険な目にあつたことはなく、中国に関する認識と現実のギャップがあつたことに気づいたという発言が多く見られました。日本人は新幹線でとなりになった人と気軽に話したりはしませんが、中国の高速鉄道では初めて会った人同士でも楽しく会話をします。そして、それは留学をした都市だけではなく、旅行先に行った人たちもそうだったということでした。そういったこれまでの見方と180度違った状況に接すると、その衝撃も大きく、日中友好のために何かをしたいという思いを持つ人が多くいるのだということがわかりました。

3) 中国語を学ぶ効果

中国語を学びはじめたきっかけというのは、さまざまでした。たとえば、中国はこれから経済的に発展するからという理由の人もいれば、身近に中国人の友人がいたからという人もいますし、中には周りの日本人で中国語を学んでいる人が全くいなかったからという理由の人もいました。

ただ、その後のみなさんの変化について見てみると、中国語の勉強を通して、中国の文化に興味を持った。中国に行ってみたいと思ったというように、中国への関心が高まったという人が多くいました。中国語を学ぶ際には、テキストには中国の文化や習慣の紹介もありますし、先生が中国でのエピソードを語ることも多く、そのような学習を通して中国の面白みに気づいていくようです。

そして、中国語を学ぶことで、旅行に行ったときに現地の人たちと話すことができる喜び、特にそれまで先生など知っている人しか交流をしていなかった中で、現地に行き、初対面の人と話して通じたときの喜びというのはひとしおのようです。一緒に同行する中国語の話せない日本人からすると、レストランでメニューをみながら「这个」「两个」と言えるだけで、頼りがいのある人という印象を持たれるようで、話している側からすると、初歩的なことしか言っていないにもかかわらず、その後敬意をもって接してもらえたということもあるようです。

日本に来る中国人は増えてはいるものの、英語に比べると、まだまだ中国語を話せる人は少ないです。そんな状況だからこそそのエピソード、体験というのが中国語学習にはあるのだということが本大会を通して感じることができました。



全体の写真

【大会概要】

主催：公益社団法人日本中国友好協会

後援：外務省、文部科学省、NHK、読売新聞社、共同通信社、公益財団法人国際文化フォーラム、中国大使館、中国大使館教育部、中日友好協会、中国国際放送局

協賛：全日空株式会社、孔子学院本部/中国国家漢弁

協力：日本貿易促進協会、一般財団法人日本文化交流協会、日中友好議員連盟、一般財団法人日中経済協会、一般社団法人日中協会

【審査員】

日本大学教授 平井和之

東京外国語大学教授 加藤晴子

東洋大学教授 続三義

読売新聞社論説委員 五十嵐文

中国国際放送局東京支局長 李軼豪

【プログラム】

2019年1月13日（日）

10：00 主催者あいさつ 橋本逸男 公益社団法人日中友好協会副会長
審査員紹介

平井和之審査員長あいさつ

10：20 高校生・一般部門スピーチ発表

13 : 15 大学生部門スピーチ発表

14 : 45 朗読部門表彰・発表

15 : 45 審査結果発表

文 伊藤洋平（認定NPO法人東京都日中友好協会副理事長）